

原子力災害対応のための人材育成

原子力災害に対応するためには、その体制を担う人材の育成が欠かせません。このため日赤では、以下のような機会を使って人材育成に取り組んでいます。

1. 緊急被ばく医療アドバイザー会議

日赤では、原子力災害対応に重要な役割を担う放射線の専門家の育成と情報交換のために、「緊急被ばく医療アドバイザー会議」を開催しています。

会議では、各赤十字医療施設において「緊急被ばく医療アドバイザー」に委嘱されている医師や診療放射線技師が参加し、日赤の原子力災害における救護体制の構築や、日赤が作成した「原子力災害における救護活動ガイドライン」の課題項目の検討、救護班要員のための「原子力災害対応基礎研修会」のあり方や教材の検討などについて話し合われます。



緊急被ばく医療アドバイザー会議の様子

2. 原子力災害対応基礎研修会

救護活動を担う全国の赤十字病院の医師・看護師・診療放射線技師・事務職員や支部職員で構成される救護班要員に、「全国赤十字救護班研修」と「原子力災害対応基礎研修会」を実施しています。

「原子力災害対応基礎研修会」では、救護班が放射線環境下で安全かつ安心して活動に従事できることを目的として、放射線・放射線防護・緊急被ばく医療に関する基礎知識、放射線防護のための資機材の使用法、救護活動時における被ばく管理などについて、講義・グループ討議・実習を行っています。

2014、2015年度は、本社主催で合計4回実施しました。これらの研修会を通して、カリキュラムや使用される教材の改良、指導にあたる講師の育成などを行ってきました。2016年度からは、より地域に根差した原子力災害対策を反映した救護班研修ができるよう、日本全国を6つに分割したブロック単位での研修を実施する予定です。



基礎研修会の様子



基礎研修会で防護服着用の実習を行う参加者



基礎研修会でグループ討議を行う参加者